

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501154		
法人名	有限会社 ななすぎ		
事業所名	介護センター ななすぎ		
所在地	長野県下伊那郡松川町上片桐4027-33		
自己評価作成日	平成22年12月22日	評価結果市町村受理日	平成23年6月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501154&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を通じて地域の方々に行事(食事作り等)への参加に協力いただき、交流の場を設ける事ができています。ホームだより(ななすぎだより)は毎日の生活の様子を写真に収め、毎月定期的にご家族、地域の方々と支援事業所等へ配布しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護センターななすぎは、3階建内の1階が通所介護、2階がグループホームとなっている。ホームに入ると利用者の穏やかで優しい表情を伺う事ができる。運営推進会議は定期的に開催され、メンバーからの発信により、多くのボランティアの皆さんがホームに来訪され、利用者と共に楽しいひと時を過ごされている。このように地域の協力が、利用者の豊かな暮らしを支えている。管理者は、専門性と豊かな経験を活かし、地域密着型サービスの質の向上に向けて、職員に対地的確な指導を行っている。本人がより良く暮らすための手がかりとして、全職員で日々の記録を基にモニタリングを行い、誰もが見易い介護計画を作成し、「ここななすぎ」に住んでいても自分らしく暮らし続けたい」という本人・家族の願いを実現できるよう、温かみのある施設作りと、利用者のできる事の可能性を引き出すよう、利用者個々の対応について理解を深めながら支援し一人ひとりを支えるケアに取り組む姿勢が伺われる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが事業所の看板を背負っているという責任意識と自覚を持って、日々の業務に携わっています。	地域の中で、利用者が生き活きと暮らせる介護を目指し「一人ひとりの人生が輝くように」と介護センターななすぎとしての理念を掲げ、全職員が理念を共有し、買い物や地域の行事に参加したり、サービスの提供場面のケアを振り返り、日々の実践の中で具現化している。	介護センターななすぎの理念を活用しつつ、利用者のその人らしい生活の継続性等、目的と意義が理念に反映される地域密着型サービスのグループホーム「ななすぎ」独自の理念方針を作り上げて、ケアの実践に活かされる事を期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議など受け身だけでなく、地域の祭りや行事、日々の散歩などを通して地域の方々との交流を深め、認識して頂いている。	地域の祭りや行事等に積極的に参加している。野菜やお花などホームに届けて頂いたりして、地域の人達とふれあいを持ち、自治会に加入し利用者が地域の一員としてのつながりが出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所発の公開の場所を増やし、地域の人や家族の人、色んな人の立ち入りを広げ、「認知症」の利用者さまとの交流を通じ理解を頂ける貢献を目指しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域、行政と客観的意見を大事にし、次の取組みのヒントとして活かしています。	2カ月に1回開催している。ホームの現況報告等行い、委員からの意見を頂き、それを職員も共有しながら実践している。更に受審した外部評価を通じて、今後のホームのケアサービスに取り組むよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の行事などにも積極的に参加し、疎遠にならないよう日頃から町との連携を取っていくよう行っています。	町の行事等に参加し、ホームの行事がある時は、町担当者まで利用者と一緒に通知を持参している。終末ケア等について相談したり積極的に協力関係に取り組んでいる。	

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の”身体拘束マニュアル”を各職員が解読し、日々の業務に十分注意を払い利用者さまに不快なケアや拘束などないよう努めてまいります。	ホームは2階にあるが、外出しそうな利用者の様子を察知し、さりげなく一緒についていく等、ホーム固有のリスクを把握し安全面に配慮している。行動の係りだけでなく、気づきを持つための学習や事故事例の検討等を行いながら生活を支えるケアの実践に期待する。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護に携わる者として職員の社会的、人間的モラルをしっかりと持ち、研修やミーティングを通じ”虐待防止”にも日頃から注意を払った業務を行っています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の雰囲気や隅から隅まで見て、意見交換できる機会をつくり、それにより運営方法や状況など報告も兼ねて行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の場を設け、それぞれがオープンな意見交換できる機会を頂いたうえでの契約を結んでいる為、クレームもなく施設の信頼を得ています。	家族の来訪時や家族会、運営推進会議、ホームの行事等に意見等を聴くよう努めている。定期的に発行しているホームだよりには、来月のお知らせやお願い等を記載しながら、意見を頂きなんでも言って頂く雰囲気作りに留意している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんなに小さな意見でも耳を傾け、すぐに反映させている為、常に鮮度ある施設運営が出来ています。	月2回のミーティング時に出される、職員からのちょっとした気付きやアイデアでも採り入れるよう管理者は聴く姿勢を持っている。常日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。	

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップの為に研修への参加を多く設け、向上心ややりがいを育てるようバックアップしてくれています。常に相談しやすい場を設け耳を傾けアドバイスしてくれています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を増やし、施設のレベルを上げていく取組みや日々の勤務の中でも仕事内容、支援方法など磨いていけるよう日々の中でも勉強できる職場になっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に2度全員参加型のミーティングを開き、利用者さまの情報交換やケアの見直し他、施設の向上にもつながる意見交換できるよう取組みをしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が、早く慣れ生活を楽しめるよう、よく話しをし、情報収集をもとに安心して暮らせるよう支援をし、信頼関係を築けるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族の不安を取り除く努力をしていく事で安心感を持っていただけるよう報告や相談を重ねることで信頼関係を築くよう努力しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がどんな暮らしを望んでいるのか、十分に話し合い、職員も共有する事で多くの支援方法を見つけ、対応の幅を広げられるよう支援しています。		

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さまの暮らしと一緒に生活を共にさせて頂いている謙虚な気持ちで接し、人間同士の信頼関係を築ける業務を行っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいて職員がいて共に利用者さまとの絆を大切にしている思いを家族に代わって利用者さまに思いを伝えるのも重要な支援だと考えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の風通しを良くしている為、家族以外の地域や馴染みの方の訪問も多くみられます。多くの方と接する事で利用者さまの生きがいにも繋がっている様にみられます。	馴染みの人達や、地域に暮らすお友達の来訪があり、一緒にお茶を囲み、昔の話しをして楽しんでいる。手紙のやりとりの支援をしたり、これまでの繋がりを大切にする支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さま同士も仲良く、暮らしていく、いけるよう一人ひとりの性格を把握し、トラブルなどないよう見守りを強化し、皆が支え合える暮らしになる支援をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断っていくのではなく、続けてアフターケアも充実した施設であると思えます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長い人生の中で、こだわりや暮らし方など希望に応じていける支援プランを検討し、利用者さまの目線に立ち、希望や意向を大事にした支援を行っています。	ミーティングで、一人ひとりの思いや意向を把握している。言葉にしづらい利用者には、さまざまな表現からその思いをくみ取るよう努めている。利用者が言いたい事への職員間の思い違いは、センター方式等を活用して、支援している。	

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さまの情報を普段から接しコミュニケーションを計ることで増やし、ミーティングの場や申し送りの場などで職員で共有し、情報の中から次に出来るケアを考え実行しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態他、能力の低下なども見逃さないよう気付いた事を必ず話し合える情報交換の場を有効にし、変化にも対応していく支援をしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に対し、モニタリング結果、新しく計画につなげるという繰り返しの中、現状ベストな方法での介護計画を立て支援しています。	本人や家族の要望等も聞きながら、日々の記録を基に、モニタリングを重視し、ななすぎ独自の介護計画書を活用し、本人が今何を望んでいるのか観察しながら、現状に即した見直しを行っている。定期的な見直しは3カ月に1回行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間との状況と、日々の気付いた事など細かく記録に残し、情報共有しながらプランの見直しを計り、次のケア実績につなげています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、状況に応じ施設側も柔軟に対応している為、信頼関係も密になっています。利用者さまにとって一番良い支援をできるよう、取り組みをしています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者さまが自分らしく楽しい暮らしを送れるよう地域資源を利用し、できるだけの支援をしています。		

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が職員が受診に同行し、受診頻度を守って適切な医療を受けられるよう、施設と病院も連携をとっています。	今までのかかりつけ医になっている。家族の要望に応じて往診は行われている。病院への受診は家族及び職員の付き添いにより行われている。利用者の日常の様子は、随時または定期的に伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変など他、小さな事でも気付いた事を職員同士で共有し、相談するようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からの病院側との連携を行っているので、急な往診などにも応じてくれ、利用者さまの急な特変にも対応できる環境づくりを行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族さまへの報告、連絡、相談をまめに取りご本人さまに苦痛のないよう十分なケアの仕方を職員で取組み、終末期におけるケアを充分に行っています。	ホームの方針として、看取りを支援し、2名の看取りを経験している。その都度家族と話し合いを持ち、本人が苦痛のないよう終末ケアに全職員で取り組んでいる。	利用者や家族のニーズをくみ取りながら、「看取りに関する指針・終末に関する確認書」等作成し、本人や家族、医師、職員等チームで話し合いを重ねて、安心と納得を得られる終末期の支援を期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、緊急の対応をマニュアル化する事で職員の不安も取り除き、事故や緊張に備えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で地域の方、消防の人を加え避難訓練を実施し、災害時のシュミレーションを行い、体験しています。	併設のデイサービスと合同で、利用者と一緒に地域及び消防署の協力を得て、防災訓練が実施されている。避難方法や避難経路についても職員に徹底されている。スプリンクラーは来年取り付けの計画がある。	

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方、人生の先輩として、又、生活の中に私たち職員が入れて頂いている意識を持ち、挨拶や特に失礼にならない言葉遣いには職員、十分に注意し、支援にあたっています。	常に、人生の先輩として、挨拶や言葉使いには注意を心掛けている。トイレ誘導等にも言葉かけに工夫し、失禁時にもやさしく、さりげない対応をしている。管理者は常に尊厳について職員にミーティング時等に徹底を図り、実践に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまが自分らしく生活できるよう、普段から職員との間にも信頼関係が持てるようコミュニケーションを計り、表情などで気分や思いを確認できるよう関係作りも行っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり生活歴や性格を理解し、ルールや決まり事に縛られず、一人ひとりに目を向け希望や思いを優先した利用者さま主義の支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただいたりお気に入りの着て気分を明るくしてもらい、その日を大切に暮らして頂く支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳を一緒に準備し、同じ物を食べ、共感する時間を毎食の楽しみのひとつにしています。その他、月に3～4回程度、利用者さまの食べたい物を聞き取りして、みんなで料理する行事長の会を設けています。	調理は外部委託であるが、月3～4回程度利用者の食したいメニューにして、買い物も一緒に行き食材を選んでくる。漬けものを刻んだり、さつま芋の皮をむいたり、その中にも職員がさりげない手助けがあり、利用者の持っている力を醸し出し楽しい食事となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスはカロリーコントロールのうえ、一人ひとりに合わせた分量と形態をとった支援を行っています。		

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアは習慣化しています。一人ひとりに合わせ、自力でできる事をしてもらい、その中で口腔の清潔を維持できるよう支援しています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>リハビリパンツを活用し、尿意の確認の他、排泄頻度やパターンを認知する事で失敗のないようケアを支援しています。</p>	<p>自立の方、見守りが必要な方、全介助の方等、排泄パターンを把握し、一人ひとりについて、常に見直しを行い、昼間、夜間いずれとも職員が声かけて自立に向けて支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表を基に排便のサイクルを理解し便秘の予防対策に野菜のお茶うけを増やしたり、水分補給を十分に促して予防に努めています。水分がなかなか摂れない利用者さまには野菜ジュースなどの工夫をして予防対策しています。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>ある程度スケジュール計画のうえで利用者さまに入浴のタイミングを知って頂くことで、楽しみの1つになるようしていますが、当日に本人の希望を確認し、強制にならない入浴方法を取っています。</p>	<p>週2回、午後3時頃からゆっくり入浴をしている。日本古来のゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者へは、強制的にならないようにシャワー浴や足浴等へと工夫している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠たい時に寝ていただくのを基本にしていますが、夜間は特に安心感を持って頂くよう静かで気持ちよく休めるよう雰囲気作りに気を付けています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員ミーティングでも内服について目的や用法、薬による変化も考え、話し合いの場を設ける事で一人ひとりの服薬支援を行っています。</p>		

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自然豊かな土地を活かし、晴れた日には散歩やドライブ、他、地域イベントにも気分転換を兼ね、外へ出る機会を増やしたケアを行っている。利用者さまの馴染みの土地、店や墓参りにも足を運んでいます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画は利用者さまに無理やりでなく希望ももちろん、促す事で外出の意欲を持ってもらえるようケアを行っています。地域や家族の方々の協力や手助けが外出支援の重要な事と感じています。	個々の希望に沿って、季節や地域の状況に合わせ、近所の散歩や町のイベント、美術館、図書館、スーパーへの買い物等へ出かけ楽しんでいる。歩行困難な利用者へは、移動の配慮をしながら支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面では不安に感じる利用者さまもいる為、所持ではなく買い物外出の際に買う事、お金を使う事の楽しみを体験して頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方からの手紙や年賀状など、職員が代読みをし、内容を伝達し、その後もいつでも利用者さまが見れるよう居室へ大切に飾らせて頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には利用者さまと一緒に作った季節の作品を飾り、今はどういう時期なんだ、と感じて頂ける工夫をしています。トイレや廊下、台所なども清潔を心掛けています。	ホーム内は、炬燵がありそこで気の合った利用者同士がくつろぐ場所にもなっている。台所での調理の音や焼き物の匂いなど、そこにいる利用者が直接感じる事ができる。壁には、利用者の力作や生け花が飾られ、落ち着いた雰囲気工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの見守りを強化する事で、どうしたいのかなど希望を聞き、強化などないよう、そして表情で気持ちを察知するようにして、苦痛のないようケアの工夫をしています。		

外部評価結果(介護センターななすぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の様に、暮らして行って欲しい施設の方針の中に使い慣れたタンスや写真、その他にも季節を感じる作品や利用者さまの好まれる物を持ち運んで頂いています。	居室からは周りの風景が眺められ、季節の移り変わりを感じる事ができる。そこには、家族や友達からのお便りや大切な人の写真、テレビ等があり、利用者に合ったベットや生活様式に合わせ布団を敷いての生活ができており、ゆっくり過ごせられる工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さまが自立した自由な暮らしが出来るよう、所々に手摺りや段差を無くした通路、他ホールや居室にも滑り止めマットを敷いて安全面を確保している。		